

教育・研究等の水準の向上に資するため、兵庫県立大学・芸術文化観光専門職大学の両大学の教育、研究、社会貢献及び管理運営等について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

1. 兵庫県立大学

教育 – 国内外で自立し活躍する次代を担うリーダーを育成する大学 –

【No.2 全学的なグローバル教育の推進、No.3 海外留学の促進と留学生等の受入の拡大】

○ パラナ・カトリック大学（ブラジル）等と学術交流協定を新規締結し、海外留学の再開に向け体制を充実させたほか、入国制限の緩和後、外国人留学生の受入を進めた。GBC以外の経済学・経営学コースでの英語による授業の実施や国際交流センターでのオンラインで言語を学び合うプログラムの実施等、全学的なグローバル教育を推進した。

【No.11 大学院における専門教育の充実】

○ 理学研究科では、物質科学専攻と生命科学専攻をインフォマティクスで橋渡しする新研究室「情報理学研究室」を設置したほか、SPRING-8を活用した装置実習を開講するとともに、一部の实習では試験的にコース外の学生の受講を認め、理学研究科全体の教育の充実を図った。

【No.20 全学共通教育の充実】

◎ 全学共通教育プログラムとその実施体制の見直し方向について、教養教育改編委員会を設置し、教養教育における課題や今後のあり方等を踏まえた必要な改編の検討を行った。また、教育のDX化を検討するDX推進委員会を設置し、令和4年度からの全学的なBYOD（Bring Your Own Device）の実施に向けた答申を行った。

【No.29 多様なニーズに対応した学生生活の支援】

◎ 令和3年度より新たに本部及び各キャンパスに保健センターを設置し、全学的な保健室体制を構築した。コロナワクチンの大学拠点接種では、同センター主体で実施し、学生・教職員のワクチン接種の加速化に貢献するとともに、芸術文化観光専門職大学の学生・教職員及び周辺教育機関等教職員の受け入れも行った。

研究 – 時代を切り拓く先導的・創造的な研究を推進する大学 –

【No.36 先端医療工学研究所を基盤とした革新的な医工学の研究開発】

○ 先端医療工学研究所の開設に向け、専任教員（医用電子情報工学、デジタルヘルス工学）の採用、工学・理学・環境人間学・看護学・情報科学の各研究科からの兼務教員の配置、研究機器の整備を行った。姫路循環器病センター、製鉄記念広畑病院等と連携を強化し「内視鏡手術シミュレータへのハンズオン機能付加」等の共同研究に取り組んだ。

【No.40、41 多様な研究基盤を生かした先導的な研究の推進】

◎ 情報科学研究科では、計算科学に加えて、ビッグデータ解析・DXについても「富岳」を活用した共同研究等へ研究領域を拡大し、地震災害の大規模計算用の都市モデルの構築や自然災害シミュレーション等の共同研究を実施した。
◎ 高度産業科学技術研究所のニュースパル放射光施設では、極端紫外線リソグラフィ関連の技術開発に貢献するとともに、産業利用を促進し、企業との共同研究等が堅調に増加するなど、放射光科学における研究の活性化を図った。

【No.47 研究活動の活性化による研究水準の更なる向上】

◎ 学長の特色・個性化経費を活用した次世代研究プロジェクト推進事業など、本学の先進的で特色ある研究へ支援を行い研究活動の活性化を図った。同経費による研究支援や表彰を受けた教員が文科省の「ナイスステップな研究者2021」（過去にはノーベル賞受賞者の山中教授や天野教授も選定）に選定され、研究支援の効果が現れてきている。

【No.50 県内各地の地域資源を活用した研究の推進】

○ 自然・環境科学研究所では、恐竜、生命史、外来生物等の研究を推進し、その成果を論文やセミナー開催により発表、報告したほか、野生動物管理では自治体が必要とする技術やデジタル化の研究を行い、計画策定に寄与した。

社会貢献 – 兵庫の強みを生かし、地域の未来の活力創出に貢献する大学 –

【No.59 成長分野を支援する中核的機能の充実】

○ 産学連携・研究推進機構の人工知能研究教育センター（AIセンター）では、中小企業向けに、AI・IoT時代に対応できる人材の育成を支援するための講座・セミナー等を開催したほか、AI技術を活用した健康医療等に関する民間企業との共同研究3件が兵庫県最先端技術研究事業（COEプログラム）に採択された。

【No.67 自治体・地域団体との連携の強化】

◎ 看護学部及び地域ケア開発研究所では、新型コロナ対応として、兵庫県と共同し、県内の看護系大学による保健所の支援体制を構築し、感染状況に応じて各大学を適切に保健所に配置した。また、保健所等における積極的疫学調査、健康調査・相談及びワクチン集団接種業務に延べ268人日の教員と大学院生が看護専門職として協力した。

2. 芸術文化観光専門職大学

教育 – 芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する専門職業人を育成する大学 –

【No.69 演劇の手法を取り入れた対話的コミュニケーション能力の養成】

○ 第1・3クォーターの必修科目である「コミュニケーション演習」のほかに、「身体コミュニケーション実習」は、選択科目ではあるが81人が履修しており履修率が高かった。また、選択科目である第2クォーターの「演劇ワークショップ実習A」では56人、第4クォーターの「演劇ワークショップ実習B」では47人が履修するなど、想定より高い履修率となっており、言語・身体双方のコミュニケーション能力の修得ができた。

【No.75 芸術文化及び観光の両分野を体系的に学ぶ教育課程の編成】

○ 専門職業人に求められる幅広い視野を修得するため、「芸術文化と観光」「観光事業概論」「アートマネジメント概論」などをコア科目群として配置し、本学の学びの特徴である芸術文化と観光の双方の視点を修得することの意義を学ぶことにより、2年次以降の主となる専攻決定後に副となる専攻科目を学ぶクロスオーバー科目の円滑な履修に繋がった。

研究 – 芸術文化及び観光を架橋した地域活性化に資する研究を推進する大学 –

【No.84 芸術文化と観光を架橋し、理論と実践を重視した研究の推進】

○ 芸術文化と観光分野を横断する複数の研究者による共同研究として行われる芸術文化観光学研究の推進に寄与する萌芽的研究を支援することを目的に、特別研究費による「芸術文化観光学研究プロジェクト」を立ち上げた。5件のプロジェクトの応募のうち4件を採択し、これらのプロジェクトは、査読付き論文として学会誌へ投稿し採択された。

社会貢献 – 地域の発展・繁栄及び新たな国際交流の推進に貢献する大学 –

【No.88 地域のイノベーションの創出と新たな地域創生モデルの構築】

◎ 地域リサーチ&イノベーションセンターでは、県と地元市町の行政職員に加え、専門のコーディネーターを配置するなど、地域連携の拠点となるための組織体制を整え、民間企業や地元自治体との連携事業として21件のプロジェクトを成立させた。さらに、産学の連携を円滑かつ効率的に推進するため、民間企業をはじめ、地元金融機関や商工団体等と7件の連携協定を締結した。

【No.90 県民ニーズに応える実践講座の開設や小中高大連携の推進】

○ コロナ禍ではあるが、地域リサーチ&イノベーションセンターや学術情報館において工夫しながら地域との連携を積極的に推進しており、コミュニケーション教育については、但馬地域のすべての高校（全17校）の生徒を対象に演劇の手法を活用した計98回のワークショップを実施し、参加した学校、生徒から一定の評価を得た。また、公開講座については、コロナ禍で大学での実施が困難であったが、但馬の地域振興を考えるフォーラム「但馬会議」をオンラインで開催し85名の参加者があった。さらに、学術情報館においても館外貸出に加えて、ワークショップを2回行うなど県民の生涯学習に貢献した。

3. 両大学の教育、研究、社会貢献における連携

【No.92 教育連携の推進】

○ 県立大学地域資源マネジメント研究科では、令和5年度からの専門3科目の科目提供に向け、教員間の相互理解、現状及び課題の共有を図る目的で意見交換会を実施した。芸術文化観光専門職大学では、展開科目に県立大学国際商経学部等の教員による科目を設置したほか、平田学長が看護学部で講義を行い、両大学の教育連携を推進した。

4. 管理運営 – 戦略的経営・効率的経営・自律的経営 –

【No.100 男女共同参画の推進】

○ 兵庫県立大学では、男女共同参画室をダイバーシティ推進室に改組するとともに、ダイバーシティ推進担当の学長特別補佐を設置し、ダイバーシティを推進した。5月にはダイバーシティ&インクルージョン宣言を発出し、意識改革事業、人材育成事業、研究支援事業、ワークライフ・シナジーの実現に取り組んだ。

令和3年度に係る業務の実績に関する評価

① 取組事業 (117事業) の評価 | 年度計画に掲げた117事業の取組状況を検証し評価

評価	評価の基準	(計画達成度)	事業数	事業数		
				県立大	専門職大	管理運営等
◎	達成時期・内容が計画を上回って実施	(100%越)	22	17	3	2
○	概ね計画どおり進行	(90%以上)	95	51	20	24
△	計画に対して時期・内容がやや劣っている	(70%以上)	0	0	0	0
×	計画に対して時期・内容が大幅に劣っており、改善を要する	(70%未満)	0	0	0	0
合計			117	68	23	26

② 小項目 (29項目) の評価 | 年度計画の29の小項目ごとに総合的に検証し評価

評価	評価の基準	小項目数	小項目数			
			県立大	専門職大	管理運営等	
a	計画を上回って実施	◎が25%以上あり△と×がない	10	6	2	2
b	計画を概ね実施	◎が25%未満であり△と×がない	19	5	7	7
c	計画をやや下回っている	△が1つ以上ある	0	0	0	0
d	計画を大幅に下回っている	×が1つ以上ある	0	0	0	0
合計			29	11	9	9

1. 兵庫県立大学 評価

(1) 教育に関する措置 -

- ア グローバル社会で活躍できる人材の育成 b
- イ 地域のニーズに応える専門人材の育成 b
- ウ 高度な専門性を有する人材の育成 b
- エ 総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成 a
- オ 人材育成に向けた教育システムの充実 a

(2) 研究に関する措置 -

- ア 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進 a
- イ 地域資源を活用した研究の推進 a
- ウ 兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進 a

(3) 社会貢献に関する措置 -

- ア 未来社会を先導する産学官連携の推進 b
- イ 大学が有する資源の地域社会における活用 a
- ウ 次世代の兵庫を担う人材の県内定着など地域の期待に応える取組の推進 b

2. 芸術文化観光専門職大学 評価

(1) 教育に関する措置 -

- ア 芸術文化及び観光のマネジメント能力を有する専門職業人の育成 b
- イ 地域活性化に貢献する専門職業人の育成 b
- ウ 世界に通じる専門職業人の育成 b
- エ 人材育成に向けた教育システムの構築 b

(2) 研究に関する措置 -

- ア 専門職大学の強みを生かし、地域活性化に資する研究活動の推進 a
- イ 研究成果の社会への還元 b

(3) 社会貢献に関する措置 -

- ア 大学が有する資源の地域社会における活用 a
- イ 大学の特長を生かした地域貢献の推進 b
- ウ 芸術文化及び観光に係る国際交流の推進 b

3. 両大学の教育、研究、社会貢献における連携 評価

- ア 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進 a
- イ 地域資源を活用した研究の推進 a
- ウ 兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進 a

4. 管理運営 評価

1 戦略的経営の推進に関する措置 -

- (1) 社会ニーズの変化に対応できる体制の構築 b
- (2) 魅力発信と知名度向上 b
- (3) 教育研究基盤の計画的な新規投資 b

2 効率的経営の推進に関する措置 -

- (1) 経営資源の重点配分・相互利用 a
- (2) 安全・快適な環境の計画的整備 b

3 自律的経営の推進に関する措置 -

- (1) 財務運営の改善 a
- (2) 自己点検・評価及び情報の提供 b
- (3) コンプライアンスの推進 b

【小項目評価結果の状況】
全体として年度計画を順調に実施している

中期計画期間3年経過後の総合的な評価 (兵庫県立大学)

- ▶ 中期計画期間 (令和元年度～6年度) 前半3年間の取組では、令和元年度は姫路工学キャンパスの建替整備が建設予定地の土壌汚染の発覚により遅延し、また、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、フィールドワークや地域等との連携活動の一部が実施できず、やむを得ず年度計画をやや下回る項目もあった。
- ▶ しかしながら、コロナ禍においても、ICTを最大限有効に活用し教育の質の確保に努める工夫を行い、令和2年度後期授業からいち早く対面授業を再開させるなど、学生ファーストの教育を実践した。また、次期を見据えた人材育成のため、学部や大学院の統合再編、新たな附置研究所の開設など大学改革を推進し、中期計画を着実に実施した。

	3年間の主な取組	今後の方向性	
教育	<p>グローバル社会で活躍できる人材の育成 GBCでは、優秀な外国人留学生の受入れ、グローバル社会で活躍できる日本人学生の養成に努め、グローバルリーダーを育成した。</p> <p>地域のニーズに応える人材の育成 県立はりま姫路総合医療センターと連携した先端医療工学研究所内に、分野横断的に科目を履修できるオープン大学院を開設し、大学院教育の充実を図った。</p> <p>高度な専門性を有する人材の育成 大学院再編により、社会科学研究所、情報科学研究科及び理学研究科を開設し、先進的な教育研究の推進を図った。</p> <p>幅広い知識を有する人材の育成 全学共通教育プログラムについて、教養教育における課題や今後のあり方を踏まえた必要な改編の検討を行った。</p>	<p>グローバル社会で活躍できる人材の育成 全学的なグローバル教育の推進、多様な国々からの留学生の受入を促進するとともに、ポストコロナにおける国際交流のあり方を検討する。</p> <p>地域のニーズに応える人材の育成 地域の特色を生かしたSDGs達成に資する教育に取り組みとともに、社会人の学び直しの機会を提供するリカレント教育の充実を図る。</p> <p>高度な専門性と幅広い知識を有する人材の育成 デジタル専攻、DX、AI、GXなど成長分野をけん引する高度な専門性を有する人材を育成する。教養教育、教理・データサイエンス・AI教育の充実など幅広い知識と課題探求能力を持った人材を育成する。</p> <p>人材育成に向けた教育システムの充実 教学マネジメント体制を構築するとともに、教学IRの実施による教育課程の体系化や教育方法の改善に努める。教育DXを促進し、教育のさらなる質の向上を図る。</p>	
	研究	<p>高度な研究基盤を活用した先端研究の推進 学長の「特色・個性化経費」を活用し、先進的で特色ある研究を支援し、研究水準の向上を図った。 ニュースパル放射光施設では、専用の入射器を新設し、放射光強度の増強及び柔軟な運転を可能とした。</p> <p>地域資源を活用した研究の推進 地域資源マネジメント研究科、緑環境景観マネジメント研究科、自然・環境科学研究所では、地域資源を活用した地域課題の解決に向けた研究を推進した。</p> <p>兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進 看護学部及び看護学研究科では、淡路市と連携した経時的なビッグデータの分析により、健康課題の明確化、健康リスクの階層化及び早期発見策の確立に取り組んだ。</p>	<p>高度な研究基盤を活用した先端研究の推進 ニュースパル、富岳などの高度な研究基盤や先端医療工学研究所、水素エネルギー共同研究センター、金属新素材研究センターなどの研究拠点を活用して、特色ある最先端の研究に取り組み、デジタルヘルス、二次電池の開発、水素エネルギーの利用、GX、カーボンニュートラル等の研究を推進する。</p> <p>地域資源を活用した研究の推進 コウノトリの郷公園、人と自然の博物館、森林動物研究センター等、県内各地に分散する地域資源を活用した研究施設を拠点として、県や地元自治体とも連携しながら、地域課題の解決を図るとともに、SDGsの達成に貢献する研究を推進する。</p> <p>兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進 兵庫県が先導してきた減災復興及び防災分野における研究の継続実施に加え、兵庫県や産業界が進める水素エネルギーの利用など成長産業分野の研究を推進する。</p>
		社会貢献	<p>未来社会を先導する産学官連携の推進 産学連携・研究推進機構内に新たに人工知能研究教育センター、金属新素材研究センター、DXサポートセンターを設置し、産業界との連携を推進した。</p> <p>大学が有する資源の地域社会における活用 多彩な教育・研究資源を生かし、注目度の高いテーマを取り上げた公開講座を積極的に開催した。</p> <p>次世代の兵庫を担う人材の県内定着 地元でのキャリア形成の意義や魅力を伝える教育を行い、地元企業への理解と就職意欲を高め、県内就職及び地元定着の促進を図った。</p>
管理運営			<p>戦略的経営・効率的経営・自律的経営</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 法人2 大学化に伴い、理事会等の運営方法の変更を行った。 2 男女共同参画室をダイバーシティ推進室に改組し、ダイバーシティ&インクルージョン宣言を発出し、全学的な取組を推進した。 3 部局の個性化・特色化を推進するため、予算の定額配分を改め、外部資金の獲得実績に応じた配分とした。